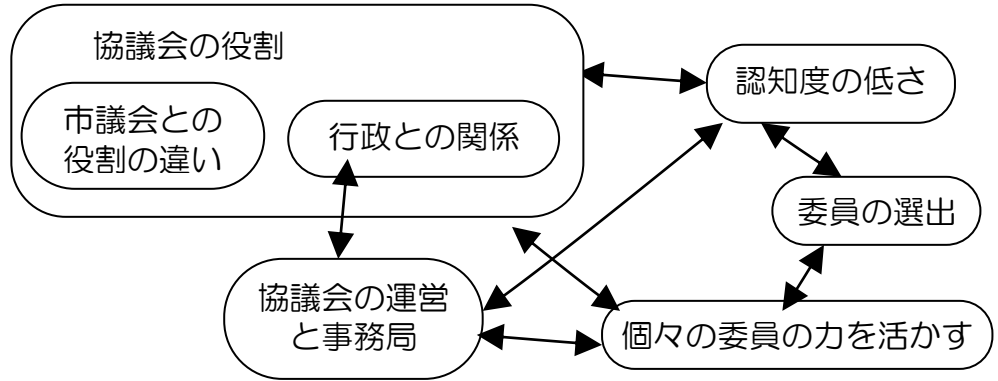


地域協議会に関する課題の考察 (2016.10.21~11.30)

1. 現状と課題



地域協議会の役割

協議会の発足時の目的・目標等の認識が薄れている。

何故なら、そもそもの原点を振り返る機会が少ない。(理想像・あるべき姿)

市議会との役割の違い

市議会と協議会の役割の違いについて認識が足りない。(行政職員にも協議会委員にも)

協議会の個々の委員には、住民の中に入って意見を聞いてくる役割があるとの誤解が、行政職員にあるようだ。

協議会は、地域自治区内の課題解決を図るための話し合い機関であるが、その目的を理解している人が少ない

協議会は、論点を整理し、区民の総意を集約できるという認識が広がっていない。(委員だけの議論で不足なら、住民公聴会の方法も)

例えば、理想のまちづくりや重点課題など、区民の総意。

行政との関係

協議会は、地域自治区と行政との協働の要と位置付けられているが、実行部隊が無かったり力不足で、多くの事が行政頼み。

行政が協議会を軽視しているように思われる。

地域協議会は上越市の将来像の中心に位置している重要な組織であるにもかかわらず、行政は育てようとしていない。

どんな事なら市長から諮問するか、選定基準が曖昧で問題がある。

行政は地域協議会に説明すれば、住民に説明しなくても良いと思っている節がある。

認知度の低さ

協議会の活動が、一部の市民にしか知られていない。

地域協議会とは何かPR不足もあるし、PR用の解説も一般市民には解りにくい。

住民の中に「地域のまちづくり」という意識が薄い区と濃い区がありそう。28区一律で行かないこともありそう

委員の選出

頼まれ委員という実態もある。

委員になる人が少ない（協議会に魅力が無い・話が専門的になってきている・経験者が巾を利かせている）

委員選出に関して町内会推薦をいう人が出てきている。（個人が自由に手を挙げられなくなる恐れがある）

女性の委員が少ない。（男性には気づきにくい課題もあり、まちづくりが偏る恐れ）

特定の団体の人が委員の大勢を占める可能性がある。（一定の方向に誘導される恐れ）

族議員のように、支援事業を争奪する目的で委員になっている人も一部に見受けられる。

個々の委員の力を活かす

委員が協議会の役割を良く理解していない。

区全体を考え、志をふるいたたせる機会がもっと必要。

協議会委員の研修の機会が不足している。

個々の委員がしっかりしないと、協議会が行政の言うがままになる恐れがある。

委員が自ら学習しようという意欲を持っていない人がいる。

偉くなったような気持ち（上から目線）で発言する人がいる。

意見を言えない委員もあり、発言が一部の委員に偏っている。

新鮮な目で見直したり、改めて問い直す機会も必要。

他の協議会との意見交換の場も必要

協議会として、町内会や住民組織、市民、市民団体と意見交換する機会が不十分。

協議会の自主審議とは何か、認識が不足し、まちづくりに対する問題意識も不足しがち。（結果、自主審議事項が少ない）

協議会の運営と事務局

会議の運営に慣れていない議長もいる。

議事進行まで全て事務局のお膳立てで動いているところも見受けられる。

事務局の役割が地区によってマチマチ。ある程度の方角性が必要。

事務局で地域協議会の役割を良く理解していない所がある。

委員の半数近くが町内会関係者の協議会は、別途の場で方向が決められている場合がある。（大事な意見が活かされない可能性もある）

2. 地域協議会の改善策を考えるためのヒント

現状と課題を大体把握したうえで、改善策についても意見が出ました。しかし、これらは複雑に絡んだ問題であり、また、区によるバラツキもあり、改善策の提案までには、検討不足の部分も多く残っております。改善策について今後も検討を続けるうえで、ヒントになりそうな意見を幾つか挙げておきます。

『認知度の低さ』

- ・一般市民の協議会の目的や役割についての認知度が低だけでなく、委員自身、行政職員、市議会議員も、認識が不十分だと感じました。理論的で抽象的な説明も必要ですが、日頃は意識していない一般市民でも身近に感じられるような例もあげ、具体的で分かりやすい説明が不足しているように思います。
- ・地域協議会の根拠法令は、地方自治法を基に作られた上越市の自治基本条例であるはずなのですが、一般に説明されるときには、条例の方が軽視される傾向にあります。行政職員への周知を徹底すると共に、委員に対する研修をもっと丁寧に行う必要があります。

『委員の選出』

- ・利権確保の動機からの立候補が目立ち始めています。協議会の本来の役割を市民に知らせる取り組みや、市民の積極的な立候補を働きかける取り組みをもっと増やしていく必要があると思います。

『個々の委員の力を活かす』

- ・研修会が各区で実施されていますが、協議会の役割の理解や議事運営についての研修が不足しているものと推察します。
- ・全員で議論すべき事柄と、関心の強い数名（分科会）で議論すべき事柄と分けて対応したり、基礎知識が行き渡っていない時や議論の進め方が分からない時は、全体で議論してから分科会を設けたり、柔軟な運営が必要であると思います。

『協議会の運営と事務局』

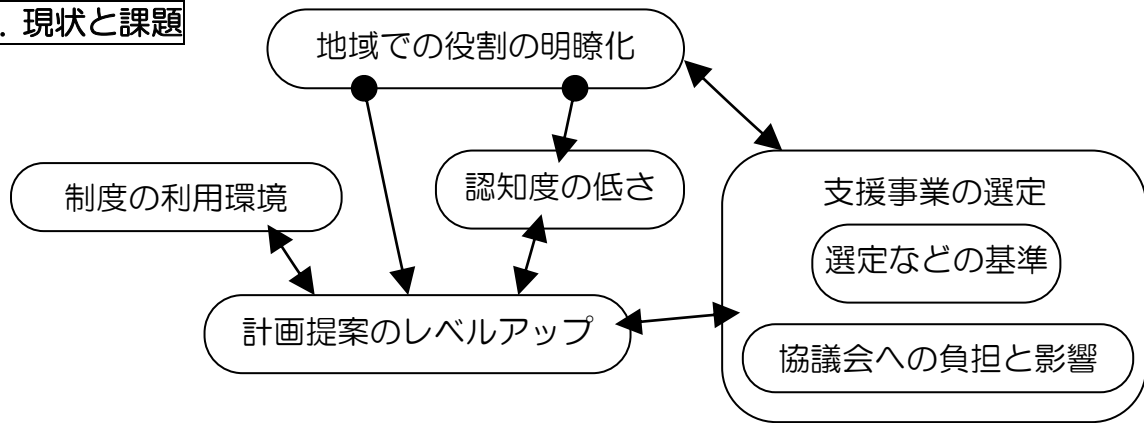
- ・前向きで建設的な議論がざっくばらんにできている区ほど、委員と事務局との役割分担や連携も上手く機能しているようです。
- ・建設的な議事進行や小グループでの懇談などが上手くできるには、正副会長を含む数名の委員の議事進行の技術が鍵になると推察します。ファシリテーションやワークショップの技法を研修する機会も必要であると考えます。

3. 今後の予定

上で述べたように、「課題」は複雑であるため、本年は改善策を提案することができませんでした。これからは、まず、①このような課題が出てきた原因を分析・特定し、その後に、②そのような分析を踏まえて、課題を改善する方法を検討することが必要です。これらの作業には、最低2年程度は必要なのではないかと思えます。このため、今後の予定は、これから2年程度をかけて、これらの作業を行うことになると思います。

地域活動支援事業の課題考察 H28.10.21~11.30

1. 現状と課題



地域での役割の明瞭化

地域の重点課題やまちづくりの目標意識が足りず、区にとっての効果を測りにくい。

地域の課題を踏まえた申請書の書き方(様式)になっていない。

認知度の低さ

支援事業の役割など一番肝要な情報が、一般市民にはまだまだ周知が足りない。

申請者が常連化して、新しい活動の申請がなかなか増えない。

周知不足だけでなく、担い手も不足か？

制度の利用環境

審査が年度当初に行われる為、実施時期によっては、使い勝手が悪い。

採択基準が協議会に一任され、各区バラバラな事柄がある。例：LED街灯

支援事業の選定

選定などの基準

審査方法などで大まかな部分は全市統一だが、具体的な部分を各区に任せ過ぎである。

市がやるべき事と、地域の活動団体などが行う事との、境界があいまい。

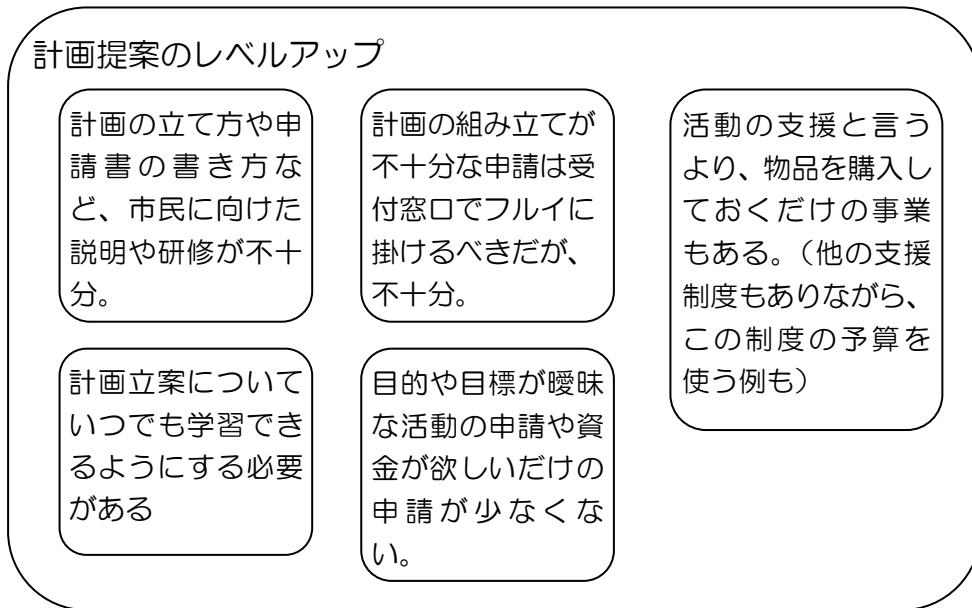
採点審査の基準があいまいである。解釈の幅があり過ぎて指針にならない。

申請団体に所属する委員まで審査採点に加わるのは、公平性の点で問題がある。

協議会への負担と影響

新任の協議会委員にとって、就任早々の審査はとても負担が大きい。

支援事業の審査に時間がとられ過ぎ、自主審議などの時間にシワ寄せがきている。



2. 地域活動支援事業の改善策を考えるためのヒント

現状と課題を大体把握したうえで、改善策についても意見が出ました。複雑に絡んだ問題であり、また、区によるバラツキもあり、改善策の提案までには、検討不足の部分も多く残っております。改善策について今後も検討を続けるうえで、ヒントになりそうな意見を幾つか挙げておきます。

また、抜本的な改革を急速に進めるのは難しく、順次、理解を得ながら改善していく必要があると思います。

『制度の利用環境』

- ・事業の募集期間を、現行は4月1日から1か月としていますが、1か月程度繰り上げて良いのではないのでしょうか？予算案が議会に提出された日から受け付け、議会で可決された場合にだけ有効と明記すれば、問題ないものと推察します。

『計画提案のレベルアップ』

- ・地域活動支援事業の普及を担う全市的な常設機関を作り、事前の勉強会や相談会を実施したり、最低限の水準を満たすようフルイに掛けるなど、諸作業を担ってもらう方法も考えられます。各区からも委員を出したり、専門知識を持った人が常勤になって運営してもらうなどすれば、人材育成も兼ねられるのではないのでしょうか？

『選定などの基準』

- ・採点審査を委員自身が所属する団体については、採点審査を辞退する事を全市的なルールにすべきだと思います。
- ・不自然に手心を加える事を防ぐ為に、審査の透明性を高める必要があります。請求があれば、採点表の開示も可能とのことですが、採用・不採用も含め、請求が無くても全ての採点表を公表すべきだと思います。

- ・他の分野での似たような採点方法（例えば、フィギュアスケートやスキージャンプなど）も参考に、公正な採点を工夫してはどうでしょうか？

『協議会への負担と影響』

- ・地域活動支援事業の普及を担う全市的な常設機関（計画提案のレベルアップの為に提案した）ができれば、各区の協議会の審議にかかる負担は減ります。また、事前の周知や相談にも力を入れることができ、募集に対し十分な応募も期待できるのではないのでしょうか？
- ・自主審議の時間を増やせるよう、基本的に再募集は止めることを推奨すべきと考えます。

3. 今後の予定

地域協議会に関する課題の考察と同様、これから2年程度をかけ、各課題について、①原因の分析・特定、②改善方法の検討を進めて参りたいと思います。

その他・課題提起H28.8.2～9.15

次の二つも、自治を考える上で重要な要素として取り上げ、検討を始めましたが、十分な時間がとれませんでした。来年度以降に行いたいと思います。

町内会の望ましい運営

- ・地域のことについて話し合うとき、一番身近な地域単位であり、重要。
- ・有効に活かされているか？その為に何が不可欠か？
（町内会の大小による違い。自分の町内会という意識の不足、他人事。）
- ・より良く運営しようとするときに足を引っ張る要素は何か？
（町内会の歴史による違い。住民意識の多様化、共通認識の持ちにくさ。）
- ・会議での発言者の偏り（女性参加者の少なさ、発言の少なさ）

各種会議における女性の活躍

- ・各種会議にもっと女性の意見を反映させていく必要がある。
（男性では気づき難い視点から、発言を期待）
- ・女性も高い能力を持っている（例：PTAでの活躍）
- ・女性の活躍を阻んでいる要素は何か？
（男性社会特有の議論の進め方、出しゃばり意識、家庭の切り盛り、同調圧力）
- ・女性が各種会議に参加しやすい環境づくりには何が必要か？
- ・市議会、地域協議会に女性候補が立候補するには？
- ・女性が地域活動に目覚めるキッカケは？

以上の活動に参加した班の面々です。（50音順）

今井不二子、北川輝樹、栗田英明、澁市徹、古沢義夫、増田和昭、三上澄夫、藤田晴子、矢澤正隆、横山郁代、以上10名